

一 テーマ

世の中のあらゆる人権課題を自分事として捉え、主体的に解決する意欲と実践力を養うために、人権同和学习をどのように進めていったらよいか。

二 テーマ設定の理由

人権同和教育の根幹として①自分事として捉える、②不当なことや理不尽と感じたことに声を上げる、③頭で理解することと並行して心で寄り添い尊重するということが挙げられる。

①児童生徒にとって同和問題は遠い過去の話のように感じる部分があるが、実際には同和問題に関わる差別意識は現在も根強く残っている。また、新しい人権課題においても同和問題と酷似した構造をしており、今後の社会において児童生徒が自分事として捉えることも重要性は言うまでもない。

②確かな人権意識を育むとともに、人権課題に対して声をあげる姿勢を育てることが、差別問題の解消に寄与するのではないかと考える。

③人権問題に関して正しい知識を備えることと、お互いに共感しあって手を取り合うことの両方が人権課題の解決に繋がると考える。私たちはこれらを、授業を通して児童生徒に正しく伝えていくことが求められている。

しかし地域や学校の実態を鑑みて授業を構想していく中で、諸先生方の指標になるものや参考になるものが少ない。そこで、当委員会では共通の教材『あけぼの』の活用を通して、授業構想を共有し、各学校の人権同和教育の授業の参考にしていただきたいと考え、研究を重ねている。

三 研究の経過

一昨年度の人権副読本『あけぼの』改訂によってジェンダー平等、感染症と差別などの項目が追加された。また、従来の教材も最新の研究・解釈に合わせて改訂があった。人権学習は部落差別の歴史など、地域差が大きくなると指摘がある中で、『あけぼの』を活用することによって、より核心に迫る人権教育が広く行えるのではないかと考えた。資料の良さを実際の活用事例と共に発信し、人権課題に正面から向き合う授業の参考にしていただきたい。

今年度の委員が中学校・小学校低学年の担当であり、小中でそれぞれのあけぼのを広く扱うことを委員の先生方をお願いした。委員の先生方には各学校の「なかよし旬間」「人権同和教育月間」を通して、授業研究を進めていただいた。

四 研究の内容

上田市立丸子中学校

(1)略案(前期・後期で各4時間ずつ人権の授業を行った。)

前期(友達とのより良い関係)		後期(ケガレ意識と差別)	
①	いいところさがし	①	ちがいのちがい
②	こんなときどうする 3つの話し方	②	ケガレとキヨメ
③	自分やクラスを振り返る	③	やぶれたたいこ
④	まとめの作文	④	コロナ差別と人権

前期(ハンセン病差別)		後期(部落差別と解放令・水平社宣言)	
①	ハンセン病の歴史、ケガレ意識との共通点	①	部落差別と解放令
②	治る病気になったハンセン病	②	解放令後も続いた差別
③	差別を許さない社会の実現に向けて	③	差別と戦う水平社運動
④	まとめの作文	④	人権標語

前期(様々な差別)		後期(結婚差別)	
①	本当に自分に関係ない?(人権講演会)	①	女性差別
②	結婚差別「ドキュメンタリー結婚」	②	ジェンダー平等を実現するには?LGBTQ
③	「嬉しかった招待状」 「ドキュメンタリー結婚」のその後	③	同性婚
④	まとめの作文	④	まとめの作文

(2)学習指導案・ワークシート

第2時 「結婚差別」

(1) 本時のねらい

資料を視聴し、小林さん家族の思いを考え、部落差別と闘う生き方を知る。

結婚に戸惑いを感じている美穂さんの姿から水平社宣言から現在まで残る部落差別の現状を知る。

(2) 指導の留意点

(3) 展開

段階	学 習 活 動	・具体的な手立て ◇教師の発問・助言 「」予想される生徒の反応	時間	資料・板書
	1, 本時の学習内容を確認する。 ①これまでの学習を復習する。 ②前時の荻原先生の講話にあった「関係ない」について触れる。 2, 資料「ドキュメンタリー結婚」を視聴する。 ワークシートに取り組む 3, ワークシートの、自分が心に残っていること、疑問に思ったことを書き出し、発表し合う。	・部落差別の歴史(ケガレ意識と差別のつながりや解放令と水平社宣言)について確認する。(①について) ◇「荻原先生の話の中で『関係ない』って言葉が出てきたけど、みんなはどう思う?例えば好きになった人が被差別部落出身だったら?」(②について) ・資料を視聴し、小林さん家族の思いを考え、部落差別と闘う生き方を知る。 結婚に戸惑いを感じている美穂さんの姿から水平社宣言から現在まで残る部落差別の現状を知る。 ◇かなり古い映像だが、それは語ってくれる人が元々少なく貴重な資料であること・現在も結婚差別に苦しんだ人がいることをおさえる。 ①美子さんの「今度生まれ変わって結婚する時もここに嫁ぐ」という言葉の裏にどんな思いがあるのか。 ②なぜ美穂さんは資料で自ら語ろうとしてくれたのか。 ③美穂さんの「越えられないですね」と「すぱっと打ち明けられる人に会えたらいいなあ」という言葉をどう受け止めたらよいか。 ◇「自分が心に残っていること・疑問に思ったことを書き出してみよう」	3 3 30 10	「あけぼの」P106～111 ワークシート1 ワークシート2～4

[今までの復習]

○差別の起り 「ケガレ」の意識は平安時代から始まり、現在に続いている。(お葬式の後の清め塩など) この「ケガレ」とは今で言う「汚い」という感情とは違い、「自分たちの手に及ばない状況になってしまうこと」「普段とは違った状態になること」を表している。平安時代の人々は自分たちの手に及ばないところの生や死、自然災害等を「ケガレ」として恐れ、「ケガレ」はうつるものと考えられてきた。

⇒「ケガレ」を取り払うことを「キヨメ」と言う。その「キヨメ」を行う特殊な技術を持った人、専門的に「キヨメ」を行える人がいた。(虎松の祖父 腑分けの仕事)

・当時の人々の意識・・・「ケガレ」「キヨメ」は「特殊」「すごい」こと

いつの間にか「特殊なこと」「すごい」という意識が、「怖い」「恐れる」という意識に変わり、「つき合わない」「近づきたくない」「住む場所を別にしたい」という思いとなり、差別につながっていった。

○明治時代の「解放令」・・・人々の平等を説いた素晴らしいものだったが……

・差別をしている側の人々の心情としては、昨日まで「ケガレ」として見ていた人たちが急に、同じ身分だと言われてもなかなか認められなかったし、明治政府も実は、税金や兵士をより多く回収するためだけに「解放令」を出したので、差別をなくすための特別な対策等は一切行わなかった。

⇒今までと変わらず、差別をする気持ちはなくならなかった。

・差別されていた側にとっては嬉しい「解放令」だったが……

⇒仕事は自由になったけれど、専門の職業を取られてしまった。

・税金が増えて生活が苦しい。

・兵役に行かなくてはならなくなってより、仕事ができず、貧しくなってしまった。

・差別はなくならず、苦しさは変わらなかった。(草突き穴の子どもたち)

・差別をなくすために立ち上がった人々 「全国水平社」

○解放令以降も部落差別は続いてきた。昭和に入り、部落差別の解消に向けての法律も制定されてきたが、依然として、部落に対する差別は続いている。(表面にはでていないが) 今回のお話も、その中の一つ。

『ドキュメンタリー結婚』のあらすじ]

長野県中野市一野菜畑や果樹園の広がる農村地帯に、小林健(つよし)さんと美子(よしこ)さん夫妻は住んでいます。二人は25年前に結婚し、今日までともに歩んできました。出会いから結婚までには、五年の歳月が必要でした。それは部落差別の厚い壁とのたたかいだったのです。

現在、健さんは長野市に本社のある鉄道会社に勤めています。美子さんは、中野市内の老人保健施設で管理栄養士として働いています。

美子さんが健さんと出会ったのは、21歳の時でした。二人は結婚を考えるようになりましたが、健さんはどうしても自分の出身のことを話すことが出来ませんでした。出会いから三年目の夏。健さんは出身を告げないまま、結婚の申し込みをしました。屈託なく承諾した美子さんでしたが、後日、健さんの口から直接出身のことを聞いた時は一瞬、顔がこわばったといいます。

美子さんには二つの不安がありました。生まれてくる子の将来と、予想される家族の反対……美子さんはまず、健さんを父親に紹介し、健さんの口から、出身のことも話してもらいました。しか

し、予想どおりの猛烈な反対でした。美子さんは学習会に参加して部落問題を学び、同じ課題をかかえる青年たちが、二人を支え励ましました。二人は美子さんの親戚を回り、理解を求めました。自分の気持ちを分かってもらうために、健さんが書き綴った文章は、時に便せん20枚を超えることもありました。

二年近く真剣に部落問題を学んだ美子さんは、不安を乗り越える自信がつかしました。そして、変わらぬ結婚への決意を両親に伝えるために、二人で美子さんの家へ行きました。まず、美子さんが一人で話しに行き、健さんは近くのお宮で待っていました。「その一時間というものは、ものすごく長かったですね。でも、精一杯話し合ってきた、やることはやったという気持ちでした」と健さんは語ります。美子さんは「どうしても親は説得できなかった。縁を切るから、その覚悟だったら行けと言われました。その足で婚姻届けを出しに行きました」と語ります。

結婚した翌年、最初の女の子が生まれ、三年たって二番目の女の子が、さらに三年後、今度は男の子が誕生しました。子どもたちは健やかに育ち、楽しくにぎやかな子育てでした。三人の子は小学校に入ると同時に、解放子ども会に通い、部落問題は常に生活の中で語られていました。

二人の結婚する時の約束。それは「差別に負けない強い子に育てる」です。そんな両親の思いをくむかのように成長した美穂さん。しかし、美子さんには最近の娘の様子が気がかりです。

美子さんは「娘たちの世代は学校で同和教育が行われているから、もっと開放的で自由に話せる年なんだろうけど、それが私が考えている以上に深刻なんですよ。親の私にも話さなくなったんですよ。だから、ああこれは根が深いな。葛藤しているんだなって思いますね」と語ります。

その美穂さんが、カメラの前で話すことを決意してくれました。撮影も今日で終わりという日のことです。美穂さんは24歳になります。母、美子さんが結婚問題で悩みぬいていた、その年齢になりました。

「撮影に応じている両親の姿を見て心が決まった」と、静かに語りました。「インタビューに答えているいろいろお話し出来たらいいなという気持ちと、でもこれを見て正しく受け取らない人がいると思うと、不安が大きくて……。でも、黙っては何も変わらないと思いました。」

その美穂さんにも、被差別部落出身ということに対するわだかまりがあります。「一年ちょっとつき合った人ですが、優しくていい人だったけど、つき合っていく中で、自分のことを分かってもらいたいという気持ちがあるんですよ。そこが私にとっては一番のハードルだったけれども、やはりお話しすることが出来なかった……。話そう、打ち明けよう……。でも、打ち明けたらたぶん離れていっちゃうんじゃないか。言おう、言おう……でもでも……。その繰り返し」

美子さんの生家とは、25年たった今も断絶したままです。父親の激しい反対の前に、娘の結婚を祝うことも出来ずに世を去った母親の心情を思う時、美子さんは深い悲しみに襲われます。「父には内緒で喪服だとか、きちっと揃えてあって、最後のあいさつの日だったか、私に持たせてよこしたんですよ。私は改めて、これが母親なんだなあって思って。こんなにつらい思いをさせた、部落差別っていうものが許せなかった」

美穂さんは、そのまだ見ぬおじいさんに対し、話を聞くとすごく優しい人だったって……。会えるものなら会いたいなって思います。

[ドキュメンタリー結婚のビデオの紹介パンフより転載]

第3時 「嬉しかった招待状」

(1) 本時のねらい

ドキュメンタリーを見て結婚差別を知った子どもたちが、なぜ美穂さんは「そんなこと関係ないよ」といってほしくなかったのか考える場面で、相手の立場に立って自分事として捉えることを通して、自分が出身を告げられたときに相手のことを尊重してどう行動するか選択することができる。

(2) 指導の留意点

(3) 展開

段階	学習活動	・具体的な手立て ◇教師の発問・助言 「」予想される生徒の反応	時間	資料・板書
	1, 前時の学習を振り返る。	「美穂さんの自分が発信していこうという姿勢がすごいと思った」	3	前時のワークシートの意見をパワーポイントにまとめたものを提示 ワークシート1
	2, 資料「嬉しかった招待状」の前半を読み下線部のところから美穂さんの彼の言葉を考える。	◇出身を打ち明けた時に美穂さんの彼は何と言ったでしょうか。 「出身なんて気にしなくていい」 「一緒に頑張ろう」	10	
	3, 資料の後半を読む。		15	
学習問題：なぜ美穂さんは「そんなこと関係ないよ」といってほしくなかった				
	美穂さんが「関係ない」と言ってほしくなかったことから美穂さんの気持ちを考える。	よね。 ◇美穂さんはどういう立場の人ですか。 「部落差別の歴史も自分の一部だから」 「美穂さんの両親がしていたように一緒に差別と闘いたかったから」 「美穂さんの子どもにも関係してくる問題だから」 「彼にも本気で考えてほしいことだから」	15	ワークシート2
	4, 自分が相手から出身を告げられた時、どうするか考える。	「本当にそんなこと気にしない」 「そもそも差別がおかしい」 ◇自分が気にしない人はたくさんいる。でも結婚となると簡単にいかない現実があったのはどうしてだと思う？ 「今までの自分なら『関係ない』と答えていた」 「差別された人と一緒に考える、一緒に向き合うことが大切だと思う」 ◇『関係ない』と言わなかった彼はなぜ言わなかったのだろう？	7	
	5, 今日の授業の感想をワークシートに記入する。			

うれしかった招待状ー『ドキュメンタリー 結婚』 その後

季節が春から初夏に移ろうとしているある日、一通の四角い封筒が届きました。うれしい予感に胸を躍らせて封を切ると、やはり美穂さんからの結婚式の招待状でした。同和教育ビデオ『ドキュメンタリー 結婚』の中で、長いこと迷い考えた末に、「黙っていたら何も始まらないから」と勇気を持って語ってくれた美穂さん。自分の 出身を打ち明けよう、でも、でも……と悩むうちに消えてしまった淡い恋。心の痛みを静かに、けれど確かな口調で語る美穂さんの姿は、多くの人々の心を打ちました。

根強く残る結婚差別の壁。 その高く厚い壁の前で年ごろの青年たちの心がどんなに傷つき、痛んでいることか。しかし、美穂さんは言いました。「こんど出合った人には、最初にきっぱりと打ち明けるつもり」と。そのハードルを見事に越えたのです。

『ドキュメンタリー 結婚』は中野市の小林健美子さん夫妻の結婚までの闘いと、子どもたちに託す思いを描いた作品です。二人の結婚は、美子さんの両親と親戚の猛反対で親子の縁を切った挙式でした。二人は結婚する時に約束したことがあります。それは生まれてくる子は差別に負けない強い子に育てようということでした。そして最初に生まれた子が美穂さんでした。ドキュメンタリーは主演者が実名で登場します。この作品の重さはここに 있습니다。差別と正面から向き合い、闘ってきた夫妻だからこそ実現できたことでした。しかし、それにはどれほどの勇気が必要だったことでしょう。「取材にに応じている両親の姿を見ていて、私も話す気持ちになった」とインタビューに応じてくれた美穂さん。しかし美穂さんは当時 24 歳。これから人生の大切な節目を迎える年ごろです。ビデオの影響がどのようなものか、図り知れぬものがありました。美穂さんのその後がずっと気にかかり、片時も心を離れませんでした。そこに届いたうれしい結婚式の招待状でした。

彼とはどのような話し合いがあったのだろう、差別に負けない子にと願って育てた両親の思いは……。詳しい経緯を聞きたいと思いました。そしてそれを記録にとどめたいと思いました。厚かましくも結婚式の前夜におじゃまして、お話を聞くことができました。

初めての出会いは一昨年のクリスマスの会で、翌年の秋に再会したこと。結婚を前提として交際する前に、出身を打ち明ける決心をしたこと。でも言おうと決めてから 1 ヶ月かかったこと。思いきって打ち明けて、返事を待つわずか数秒の時間の長かったこと。彼は美穂さんの思いをしっかり受け止めてくれました。「そんなこと関係ないよ」と言われなかった事で、この人となら共に歩いていけると美穂さんは思ったそうです。結婚すれば「関係ない」ではすまされない重い現実。職場で同和教育を受けてきたという彼の両親も、部落問題をよく理解して結婚に賛成してくれたそうです。「二人が部落問題をわだかまりなく語り合えることが大事。結婚はゴールではなく、スタートなんだよ」美穂さんに送った両親の言葉でした。翌日、みずみずしい青葉の中でウエディングドレスの花嫁は美しく輝いていました。

[信越放送ディレクター 野沢喜代ー1999/7/28 同和教育長野]

第4時 「『手紙』から結婚差別を考える」

(1) 本時のねらい

結婚差別の理不尽さを知り差別を自分事として捉え始めた子どもたちが、差別を理由に幸せになることを反対されたときにどう行動するか考える場面で、これまでの学習を作文にまとめることを通して、人権課題について当事者意識をもって自らのこれからの行動を考えることができる。

(2) 指導の留意点

(3) 展開

段階	学 習 活 動	・具体的な手立て ◇教師の発問・助言 「」予想される生徒の反応	時間	資料・板書
	1, 前時の学習を振り返る。	「自分が被差別部落出身じゃなくても『関係ない』では済まない問題だった」 ◇『人権』とは『誰もが幸せになる権利』	3	前時のワークシートの意見をパワーポイントにまとめたものを提示
	2, 資料「手紙」の1番を聴く。	◇結婚差別について詞を書いた曲があるので、これまで学習してきた皆さんに聞いてほしい。	5	ワークシート
	3, 資料2～3番を聴く。	◇部落差別は根強いけれど、皆さんはそれを跳ね返せる人になってほしい。そのために何ができるだろう。	7	ワークシート
学習問題：差別を理由に幸せになることを反対されたときに、自分には何ができ				
	4, 学習問題をテーマとして人権作文を書く。		35	原稿用紙

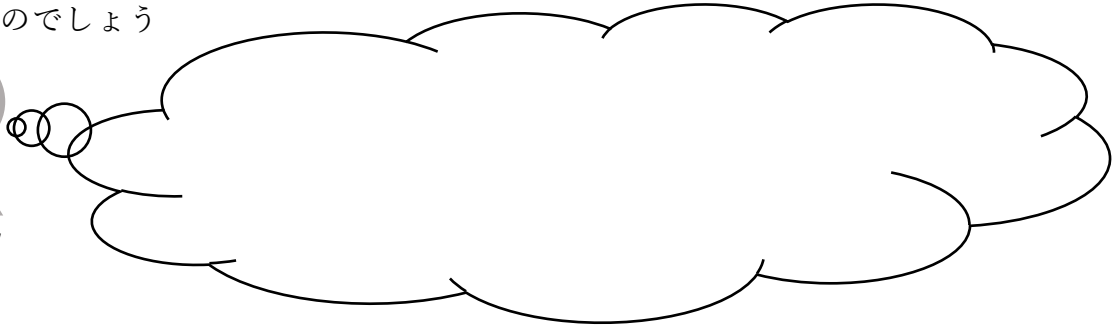
手紙 -岡林信康-

私の好きなみつるさんは、おじいさんからお店をもらい
二人一緒に暮らすんだと、うれしそうに話してたけど
私と一緒になるのだったら
お店を譲らないと言われたの
私は彼の幸せのために、身を引こうと思ってます
二人一緒になれないのなら、死のうとまで彼は言った
だから全てをあげたこと
くやんではない 別れても
くやんではない 別れても
もしも差別がなかったら、好きな人とお店がもてた
好きな人とお店がもてた
部落に生まれたそのことの、どこが悪い なにがちがう
暗い手紙になりました
だけど私は書きたかった
だけど私は書きたかった

組	番	氏名
---	---	----

1. 『関係ない』という言葉について ~もし好きになった人が被差別部落出身だったら~

2. 美子さんの「今度生まれ変わって結婚する時もここに嫁ぐ」という言葉の裏にどんな思いがあるのでしょうか



3. なぜ美穂さんは自ら語ろうとしてくれたのでしょうか。

.....

.....

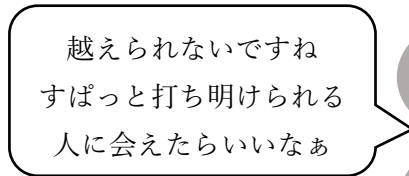
.....

4. 美穂さんにとって結婚するまでに越えなければならないことはどんなことでしょうか。

.....

.....

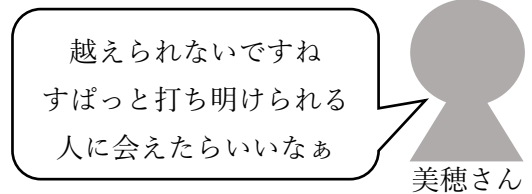
.....



5. 今日考えたこと、自分が心に残っていることを書き出してみよう。

		氏名
組	番	

4. 美穂さんにとって結婚するまでに越えなければならないことはどんなことでしょうか。



[資料 1]うれしかった招待状—『ドキュメンタリー 結婚』 その後

季節が春から初夏に移ろうとしているある日、一通の四角い封筒が届きました。うれしい予感に胸を躍らせて封を切ると、やはり美穂さんからの結婚式の招待状でした。同和教育ビデオ『ドキュメンタリー 結婚』の中で、長いこと迷い考えた末に、「黙っていたら何も始まらないから」と勇気を持って語ってくれた美穂さん。自分の 出身を打ち明けよう、でも、でも……と悩むうちに消えてしまった淡い恋。心の痛みを静かに、けれど確かな口調で語る美穂さんの姿は、多くの人々の心を打ちました。

根強く残る結婚差別の壁。 その高く厚い壁の前で年ごろの青年たちの心がどんなに傷つき、痛んでいることか。しかし、美穂さんは言いました。「こんど出合った人には、最初にきっぱりと打ち明けるつもり」と。そのハードルを見事に越えたのです。

1. 出身を打ち明けた時に美穂さんの彼は何と言ったと思いますか？

		氏名
組	番	

[資料 2]うれしかった招待状ー『ドキュメンタリー 結婚』 その後

『ドキュメンタリー 結婚』は中野市の小林健美子さん夫妻の結婚までの闘いと、子どもたちに託す思いを描いた作品です。二人の結婚は、美子さんの両親と親戚の猛反対で親子の縁を切った挙式でした。二人は結婚する時に約束したことがあります。それは生まれてくる子は差別に負けない強い子に育てようということでした。そして最初に生まれた子が美穂さんでした。ドキュメンタリーは主演者が実名で登場します。この作品の重さはここに 있습니다。差別と正面から向き合い、闘ってきた夫妻だからこそ実現できたことでした。しかし、それにはどれほどの勇気が必要だったことでしょう。「取材にに応じている両親の姿を見ていて、私も話す気持ちになった」とインタビューに応じてくれた美穂さん。しかし美穂さんは当時 24 歳。これから人生の大切な節目を迎える年ごろです。ビデオの影響がどのようなものか、知りたくなかったです。美穂さんのその後がずっと気になり、片時も心を離れませんでした。そこに届いたうれしい結婚式の招待状でした。

彼とはどのような話し合いがあったのだろう、差別に負けない子にと願って育てた両親の思いは……。詳しい経緯を聞きたいと思いました。そしてそれを記録にとどめたいと思いました。厚かましくも結婚式の前夜におじゃまして、お話を聞くことができました。

初めての出会いは一昨年のクリスマスの会で、翌年の秋に再会したこと。結婚を前提として交際する前に、出身を打ち明ける決心をしたこと。でも言おうと決めてから 1 ヶ月かかったこと。思いきって打ち明けて、返事を待つわずか数秒の時間の長かったこと。彼は美穂さんの思いをしっかり受け止めてくれました。「そんなこと関係ないよ」と言われなかった事で、この人となら共に歩いていけると美穂さんは思ったそうです。結婚すれば「関係ない」ではすまされない重い現実。職場で同和教育を受けてきたという彼の両親も、部落問題をよく理解して結婚に賛成してくれたそうです。「二人が部落問題をわだかまりなく語り合えることが大事。結婚はゴールではなく、スタートなんだよ」美穂さんに送った両親の言葉でした。翌日、みずみずしい青葉の中でウエディングドレスの花嫁は美しく輝いていました。

[信越放送ディレクター 野沢喜代ー1999/7/28 同和教育長野]

[学習問題]

なぜ美穂さんは「そんなこと関係ないよ」と言ってほしくなかったのだろう



美穂さん

「そんなこと関係ないよ」と言われなかった事で、この人となら共に歩いていけると思いました

2. 美穂さんが「関係ない」と言ってほしくなかったのはどんな気持ちからだろう

3. もし自分が誰かから出身を告げられたとき何と答えるだろう

--

4. 今日考えたこと、自分が心に残っていることを書き出してみよう。

--

人権同和教育月間 指導案 3学年

教材名『ジェンダー平等を実現しよう』

1 本時の位置 (全4時間扱い中の第1時)

次時：性の多様性について学習し、一人ひとりの考え方を尊重するとともに理解を深める。

2 本時の主眼

人権を守る取り組みに興味を抱いた生徒たちが、ジェンダー平等について考える場面で、男女それぞれの立場から見た不平等感を対比することを通して、ジェンダー平等に向けた課題を発信し共有することができる。

3 本時の展開

段階	学習活動	内容・指導援助	時間	資料
導入		◇SDGs第5の目標であるジェンダー平等の実現について考える	5	
	学習問題: ジェンダー平等ってなんだろう			
展開	1 女らしさと男らしさからイメージする言葉を書き出す	◇『ジェンダー』という言葉の意味を調べる ◇なかなか思いつかない生徒にはあけぼのの16ページを参考にするよう促す		あけぼのP16 ワークシート
	学習課題: 男女それぞれの立場から平等・不平等なことを挙げて比べてみよう			
	2 「男のくせに」「女のくせに」に続く言葉を考える	◇男女別の班に分け、班内でそれぞれの言葉に続く言葉を挙げる ◇この際、あくまでジェンダー平等を考えるためにあえて男女で分けて考えていることに留意する	10	ワークシート
	3 2で挙げたことを自分が言われたらどう思うか 【個人追究】 【グループ追究】 【全体追究】	◇自分が保護者から・友達から・先生から言われたことがあるか問いかける ◇もし言われたらどう思うか書く ◇同性の班の中で意見を共有する ◇男性・女性それぞれから挙げたことを区別して板書する ◇異性側の意見を聞いてどう思ったか書く	15	ワークシート
4 今の世の中で具体的に何が不平等になっているか知る 男女平等を目指してどんな取り組みがあるのか知る	◇あけぼのP17,18の内容を紹介する	10	あけぼのP17,18	
5 ジェンダー平等に向けた課題を挙げる	◇今日の学習を振り返り、ワークシートとあけぼのからジェンダー平等に向けた課題を挙げる ◇性的少数者の捉え方について中傷したりあざ笑ったりしないよう注意する	10	あけぼのP16,17,18 ワークシート	

人権同和教育月間 指導案 3 学年

教材名『性の多様性について考えよう』

1 本時の位置 (全4時間扱い中の第2時)

前時：ジェンダー平等についてそれぞれの立場から不平等なことを挙げ今後の課題を考えた。

次時：同性婚をめぐる議論についてしり、自分の考えをまとめる。

2 本時の主眼

ジェンダー平等について学び男女それぞれの立場によってとらえ方が違うことに気付いた生徒たちが、性の多様性について考える場面で、一人ひとり違う性のとらえ方を知ることを通して、ジェンダー平等の実現に向けて一人ひとりの考え方を尊重し理解を深める事ができる。

3 本時の展開

段階	学習活動	◇指導援助	時間	資料
導入	1 前時の学習を振り返る	◇ジェンダーとは何か、自分たちが行動できることは何かを問いかける ◇「セクシャルマイノリティ」や「LGBTQ」という言葉を聞いたことがある	8	
	学習問題:性の多様性ってなんだろう			
展開	2 あげぼの『自分の種類とその性別』を読みワークシートに感想を記入する	◇音読する ◇性別とは簡単に「男性」「女性」と分けられるものではないと全員がとらえられるようにする。	8	あげぼの P19,20
	3 あげぼの『「性」って何?』と読んだ後、『あなたの「性」に印をつけよう』に触れる	◇音読する ◇『あなたの「性」に印をつけよう』のワークは自分の心の中でやるように指し、からかうような言動には十分注意する	8	あげぼの P21
学習課題:人それぞれの「性」を知ろう				
開 末	4 あげぼの『一人ひとり違う「性」』を見てそれぞれの考え方の違いを理解する	◇例としてAさんはどんな人なのか全体で共有する ◇Aさん以外の人はどんな考え方をしているのか簡単にまとめるように指示する ◇人によって「性」のとらえ方が違うことを紹介し、自分と誰かの好みが違うことは当たり前ととらえられるようにする ◇海外(タイなど)の性の多様性についての話をしてみることもよい ※ワークシートのコラム参照	13	あげぼの P22,23 ワークシート あげぼの P24,25
	あげぼの『セクシャルマイノリティの悩み』を読む	◇音読する		
	5 本時の追究を振り返り、まとめる	◇ワークシートに今回考えたこととセクシャルマイノリティも含めたジェンダー平等の実現に向けて自分がしていきたいことを書く	13	ワークシート

人権同和教育月間 指導案 3学年

教材名『性に関する差別』

1 本時の位置 (全4時間扱い中の第3時)

前時：人によって異なる性があることを知り、セクシャルマイノリティについて理解を深めた。

次時：様々な人権課題について自分が考えたことを作文にする。

2 本時の主眼

性の多様性を知って一人一人違いがあることは当たり前だと理解した生徒たちが、性に関する人権課題について考える場面で、1年時に学習した「違いのちがいを」に関連付けて考えを整理することを通して、幸せになる権利の実現に向けて互いの考えを共有することができる。

3 本時の展開

段階	学習活動	内容・指導援助	時間	資料
導入	1 前時の学習を振り返る	◇人によって性の捉え方に差があることと、差があれどそれは当たり前であることを確認する。 ◇「人権は幸せになる権利」というはじめに学習したことを強調する。	8	
	学習問題:性に関する人権課題にはどんなものがあるだろう			
展開	2 性に関する違いを挙げる	◇ワークシートに社会における様々な性別や性に関する違いを挙げておき、他にも思いつくものがあるか問いかける。	8	ワークシート 白紙・カード
	学習課題:違いのちがいを分類しよう			
開	3 班で固まった意見を全体で共有する	◇白紙(A3)と様々な違いが書かれたカードを配布し、班ごとに「あっても良い違い」なのか「あってはいけない違い」なのかで分類する。 ◇すべての班で同じ意見だったものはなぜそう思ったのか代表の班に発表してもらい、その他の班にも続けて意見があれば発表してもらおう。 ◇意見が割れたものについては、それぞれの班になぜそちらに分類したのか聴き、何を基準にして分類したのか明確にする。	18	パワーポイント ワークシート
	4 現在の日本では同性婚を認めるかどうかの議論が進んでいることを紹介する。	◇今現在の日本では同性婚は認められていないが、立法や司法の場でどのような議論が進められているかを紹介する。 ◇動画 https://www.youtube.com/watch?v=S1gca7hAwIM を視聴する	8	
末	5 本時の追究を振り返り、まとめる	◇ここまでの話を聞いて同性婚についてどう思うか感想を記入させる。	8	ワークシート

1 「女らしさ」「男らしさ」からイメージする言葉は？

○女らしさ	○男らしさ

2 「男のくせに…」 「女のくせに…」 に続く言葉で、思いつくことはどんなこと？



男のくせに

女のくせに



3 これらのことを自分が言われたらどう思う？

4 自分と違う立場の人の意見を聞いてどう思う？

5 ジェンダー平等に向けて今後の課題

1 「自分の種類とその差別」を読んで

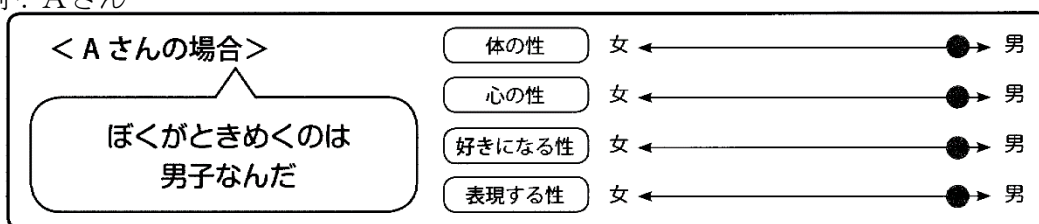
.....

.....

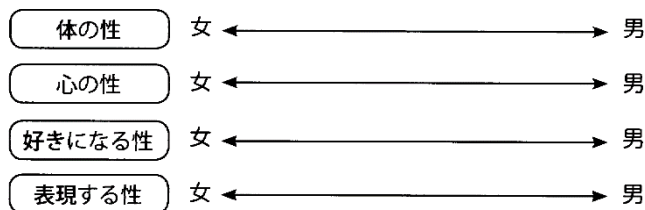
.....

2 一人ひとり違う「性」を見て

例：Aさん



☆自分が気になった_____さん



_____さんってどんな人？

コラム 海外(タイ)の性の多様性

トムゲイ クイーン ทอมเกย์ควีน	เลส ビアン เลสเบี้ยน	女性 หญิง	男性 ชาย	アダム อดัม	アンジー แอนจี้
サムヤーン สามย่าน	トム ทอม	トムゲイ ทอมเกย์	ゲイ クイーン เกย์ควีน	デー ดี้	ボート โบท
チェリー เชอรี่	バイ ไบ	トムゲイ キング ทอมเกย์คิง	ゲイ キング เกย์คิง	トムゲイ ツウエイ ทอมเกย์ทวอย	オカマ สาวประเภท 2

タイでは一般的に18の性があると考えられている。それぞれの性や多様性が広まった理由などを調べてみるとより理解が深まるかも？

ちなみにFacebookでは登録時に50種類の性別から選べるらしい

3 今回考えたこと・セクシャルマイノリティも含めたジェンダー平等の実現に向けて

1 違いのちがいを分類しよう

	内 容	○×△	理 由 を 記 入 し よ う
①	制服が男子と女子で異なる		
②	(日本では)異性としか結婚できない ※同性とはできない		
③	男性は土俵に上がるが、 女性は上がることができない		
④	男子と女子でトイレが分かれている		
⑤	スポーツにおいて男女で 種目分けをしている ※男子100m/女子100m		
⑥	共学の大学なのに 性別によって加点がある		

3 パワーポイント・動画について(メモ)

4 後期人権月間を経て 考えたこと・感想

五 研究のまとめと課題

今年度は委員内で授業参観を企画し、実践のフィードバックを行うことができた。客観的に実践を検証する機会を設けることは、自身の授業改善のためにも、委員会としての研究のためにも、有用だったと考える。

人権教育では各校の児童生徒の実態や地域からの期待などが大きく授業構想に影響した。特に上田丸子地区ではその傾向が顕著であった。複数の学校・学級で統一された授業を行うことは適さない場合も大いに考えられる。一方で授業実践をまとめて積み重ねて提示することは必要であると考え。人権に関しては諸先生方が自身の専門教科ではないため、手探りで授業を考え、苦労を重ねていることが考えられる。児童生徒により深く人権課題について学んでもらえるように、人権の授業の基準として当委員会の研究を活用していただきたい。

委員名簿 ※敬称略

推進係 永井 宏樹 (上田市立東小学校)
委員 ◎高橋 颯斗 (上田市立丸子中学校)
諸岡 絹江 (東御市立田中小学校)
山口 名香子(上田市立中塩田小学校)